

第二の人生は汗をかき 人と触れあい ともに年金改悪攻勢に立ち向かおう



忍者はどこに潜んでいる？
～秋の旅 伊賀上野にて～
(2頁を参照)

退職者

こだま会報

NO.44

一寸先は闇とは政治の世界の諺。
私たち退職者の世界も三年先には、年金でも健保でも制度そのものが崩壊しかねない様相を呈してくるのではないか。地球を駆け巡っている金融不安は、資本や社会主義国、先進・後進国を問わずその猛威がその垣根を押し倒してしまった。

国民の支持率僅か三割にも満たぬ内閣が政権欲維持のため、先の選挙の国民審判を無視して野党を取り込み、無為無策の国債乱発でそのツケを将来に廻すことも無頓着のようである。次の選挙でまた無党派の反抗を期待し、私たちがその一翼を担うではないか。政策減税も蓋あければ、二〇〇〇万円以上の層が大巾減税、九〇〇万円以下が実質的増税とか。不景気発足の元凶消費税も約五千億

**納得できぬことばかり
退職者も決起を！**

「こだま会」は、創立15年を迎えました。「こだま会」とは、山のこだまのごとく、会員が呼べば、その要請にすぐ応えられるような会に。そして、その響きは限りなく拡がり、併せて質の高い会を目指すことを意味します。

円以上が滞納、さらに、今日の状況をもたらした戦犯政治家のうち議員在職25年に際し、月額30万円手当加算など納得できないことばかり。

一〇〇兆円と称される日本の個人資産を狙って押しよせる内外の金融機関。その個人資産も、調べてみると、日銀の資産循環勘定の数字上のことでその実体は不明だという。

金融機関経由の預金が不良債権や国債購入に廻った分などを差引くと、実質は百兆円しかないという。取らぬ狸の皮算用というところか。われも金融機関の誘いにくれぐれも慎重といこう。

とにかく、退職者もこれまで以上情報に敏感になる必要がある。こだま会の役割も重くなるといつてよい。

鬼練供



祭を彩る鬼の舞(伊賀上野)

旅行の会⑭

奈良室生寺・忍者の里伊賀上野と紅葉の赤目四十八滝 温泉の旅

とき 一月二五日(水) 二六日(木)

コース 出発地—伊賀上野市—赤目温泉(対泉閣泊)—赤目温泉—室生寺—出発地

横浜・本厚木で32名の会員を乗せ貸切バスで出発、絶好の天候に恵まれ予定どおり一四時伊賀上野市内に到着した。だんじり会館・忍者屋敷・上野城・俳聖殿など見学の後一六時頃宿泊の赤目温泉対泉閣に到着、入浴のあと楽しい夕食懇親会となる。だんじり会館ではスクリーンで市内の紹介、忍者屋敷での実演、昔の家屋は屋根が低かったという実感がした。上野城は戦国の軍略家、藤堂



高虎の築城、30mの内堀の石垣の高さは日本一とか。竣工直前の暴風雨で倒壊した天守閣は地元川崎克代議士が昭和一〇年私財を投じて復興。俳聖殿は松尾芭蕉の当生地、生誕三百年記念建設、これも川崎氏寄贈。二日目の朝食前を活用して赤目四十八滝を散策、全行程となると三時間以上になるので、往復一時間の布曳滝まで片道約1kmで我慢する。

旅館を九時出発、最後の観光地・奈良室生寺へ、女人の入山を許した「女人高野」と呼ばれる宗生寺の最古の国宝「五重塔」は九月二二日の台風七号により無惨損傷の姿がテレビで報道され関心を高めた。千二百年前天平時代の建物に樹齢約六五〇年の杉木が根こそぎ倒れこみ、裏面

歴史教室

○歴史散歩(第一八回)

とき 一〇月二三日(木)

ところ 秋の鎌倉 日蓮の上人の足跡を尋ねて

参加者 三〇名 説明者 村木美喜雄氏

左側の屋根被害が痛ましかった。見学のあと一路帰途へ。旅館と昼食で食べた、本場松坂牛肉がことのほか美味であった。

先ず本覚寺に向う。日蓮上人の大難は「四ヶ度小難数知れず」の内の第四の佐渡島流罪三年後許され鎌倉に帰り、再度幕府を諫め用いられず、故事にならない二か月後、身延山に隠世した。二世日朝上人の代、遺骨を分けてこの地に移してより東身延と呼ばれ、夷堂(エビタ)に分骨堂がある。常栄寺(はたもち寺) 捕らえられ市中引き廻し竜ノ口で首の座に据えられた日蓮上人が、不思議と命助かり佐渡流罪となる。引廻しの馬に乗せられた上人に有り合わせの胡麻を塗った餅を鍋蓋に載せて供養したのにちなみ、はたもち寺ともいう。法難の日には現在もこの習慣は続い

ている。妙本寺は頼朝の乳母比企尼一族の屋敷跡。北条一族と争いに敗れた死霊を弔い、建立された日蓮宗最古の寺である。緑濃く湿気多く蛇身の謂われ等々、乱世の時代を偲び成佛を願う一札して門を出る。

午後は安國論寺へ。天然記念物指定の海裳、四季折々の花咲き乱れ眼福をもたらず寺、美しい花に時の立つのを忘れ去り難かったのに今回は何も無い、ただ忘然。

妙法寺は別名苔寺と称されている。いつの頃から「触らないで」と立札が出て柵が出き、今回は下より見上げたら昔の面影は何もなく、あの露を含み光を放つ緑の階段が無い。眼を擦りたい思いがした。熊本細川家姫君菩提のため、奇進の本堂に参拝する。

国道を渡り、長勝寺に向う。山門を入り左側に法華堂、正面に帝釈堂、その前に高村光雲作の高さ四米の日蓮上人の銅像が立っている。ここは日朗上人の異兄弟にあたる日像上人が一四歳の折、日蓮上人の臨終に際し帝都開経の遺命を託され、この遺訓を胸に日朗上人の許で修行し、日蓮入滅一年後由比ヶ浜で毎夜百か日の荒業をなし京都に向った。長勝寺では二月一日に荒業が行われる。

歴史教室を主宰

荒井太郎先輩へ惜別の辞

古怒田富士一

このたびは荒井先輩のご訃報に接し、あまり突然のことに驚き入りました。先輩には平成一〇年一月一七日にご逝去された由、心よりお悔やみを申し上げます。

思い返せば先輩には私が県庁に就職以来お心にかけてお教え下さいました上に、退職後もあの温顔で優しく色いろ人生について問いかけて下さいました。その声も今は耳にすることもかなわず悲しいお別れとなりました。しかし先輩の深いご慈愛とお教えは私の心の中に生きて、長くお導き下さることと存じます。今はただ、先輩のご冥福をお祈りするばかりで、淋しさに身を切られる思いがいたします。

先輩の献身的な奉仕活動によって盛況に続いている『歴史教室』『歴史散歩』の会も世話人の皆さんと共に努力し、一層の充実を図りたいと思っております。これからは色いろと親しくご相談を申し上げることも出来なくなりましたが、私どもは不安でもございませんが、お教えを守って皆さんと力を合わせ精一杯生き抜いて行きたいと存じます。

さようなら荒井先輩、安らかにお眠り下さい。

第13回 健康ウォーク

湘南国際村と子安の里の秋

とき 十一月六日(金)

参加者 一三名

秋の声 国際村の効用を聞く
猫じゃらし子安の里の長屋門

神谷都美緒

JR逗子駅に集合した一行はバスで国際村入口へ。少し登ると国際村センターがあり、池田稔総務部長が迎えて下さった。センターは三浦半島の中央部の丘陵にあり、海と緑豊かな自然に囲まれている。周辺の研究施設、来訪する諸国の研究者のための大ホール、会議室、宿泊施設などが整えられたグレードの高い国際交流の拠点で、丘の中腹に建ち、この側からみると二階建てのようである。



湘南国際センター
2階建てに見える

相模湾の向こうにそびえる富士山の眺望、とくに夕陽がすばらしいと聞いたが、



晴れていれば富士山が見える

今日は寒さむとして冷たい風が吹き抜けて、早く物陰へ入って避けたいと、昼食もそこそこ唯一のお店ユニオンに自然集合する。

子安の里への道はきれいに整備され、丘を下る途中の家々は、大きさや色、塀の高さなど統一されて整然としたなか、個性的な花飾りが印象的だった。子安の里の軽部家の長屋門や幹回りが三メートルもありそうな大樹を見ながらゆつくりと歩く。紅葉も始まった自然、空気は大きく胸を開かせてくれる。でも道はずうっと舗装され、子安窯にも寄り添って一時間少々で久留和バス停に着いてしまった。ちよつとばかり物足りなしい思いで解散した。

食文化をたのしみ会

(第3回)

とき 十一月一三日(金)

一十一時~一五時

参加者 一三名

ところ 横浜市健康福祉センター

メンバーは固定しつつあり、男性の参加もあり、作って食べ、たてて飲む楽しい会でした。

薬膳料理は

お正月の薬膳料理

栗と手羽先の筑前煮... 身体を温め気を補う

・菊花なます... 増血によく老化を防止する

・杜仲入りきのこ汁...

生薬を使った健康によい正月料理を実習し、食事のあとお抹茶とお菓子を頂きました。

観劇の会

第二回 秋の観劇会

今回の観劇会は、十一月一日(金)国立劇場で、一二月歌舞伎公演を鑑賞しました。

前回参加した愛好者に加え、初めて、ご夫婦で参加した方も二組もあって三〇名の出席でした。暮の忙しい合い間を縫って、華やかで美し

い、また情緒あふれる歌舞伎の世界に魅せられて楽しいひとときを過ぎました。

中村芝翫、尾上菊五郎のベテランに加え、福助、橋之助、辰之助の若手の花々の配役に、伝統の芸の素晴らしさを観て、「しばらくぶりに歌舞伎を観て、とてもたのしかった。」「若い時にはわからなかった歌舞伎のよさがわかった」などの感想も聞かれました。

こだま会 お茶会

一月三十一日(土)、横浜「そごう」茶室、是心庵で行われたこだま茶会は、会員の鈴木志げ子さん社中の茶会に、こだま会が参加したものです。こだま会から亀井禎子さん(会員)もお点前し、秋中一充さん(会員)父娘の尺八と箏が演奏されて、優雅さを一層深めました。

こだま会からは八名、現職の方がた、かつての県庁茶道クラブOBの方たちもいらっしやって、約一〇〇名が出席され、ゆつくりとした時間の流れる一刻でした。



予告!! 趣味の会

●歴史教室

特別講師荒井太郎先生の急逝に伴い、近く世話人で教室の運営について協議し、今後の行事につきましては、その都度部会員にお知らせいたします。

●旅行の会(第一五回)

春の旅は、希望の多い次のコース、日程で実施します。お知り合いをお誘いなさって多数ご参加下さい。

歴史の宿、新潟六日町温泉の

豪華な宿「龍言」と秘境奥只見湖遊覧船、越後路の旅

とき 六月一六日(木)ー一七日(木) 本厚木(7時)横浜(8時)ー関越自動車道ー小出ICー大浦開山堂ー越

後ゆきくら館(酒蔵見学試飲)ー重要文化財目黒邸ー六日町温泉泊ー小出ICー奥只見シルバール

インー銀山平ー奥只見湖遊覧船ー奥只見ターミナルー関越自動車道ー出発

地

'98 第4回 手作り文化祭



↑鈴木志げ子さん 虚無僧姿の秋中一充さん→



98年11月28日(土) 神奈川県自治労連退職者会の「ふれあい手作り文化祭」が、横浜市従会館全館貸切りで開かれました。日頃の趣味を發揮した絵画・編物・きりえなどの出品、歌や踊りなど演芸、持ち寄りのバザーが賑やかに会場を色どりしました。参加者三〇〇名余り10時から16時までたっぷり楽しく交流しました。

こだま会では斉藤一悦さんが司会で演芸を盛り上げたほか、次の方がたが出品・出演しました。

- 油 絵 亀井禎子さん
- 手 芸 小野田ふで子さん
- 薬膳展示 上野多恵子さん
- 尺八演奏 秋中一充さん(写真右)
- 踊恋椿 鈴木志げ子さん(写真左)

このほか会場整理やバザー品提供、販売で協力して頂いた方がたご協力ありがとうございます。

●健康ウォークの会(第一四回)

新緑の森を森林の薫りを浴びて
とき 四月中旬予定
コース 大和市泉の森を中心に散策します。

◆ご案内とお知らせ◆

趣味の会の開催は年3回の会報では予告とうまく連動せず、掲載されない場合も生じます。各部会に加入の方には個々にご案内しておりますので、案内の必要な方は部会に参加して下さい。お気軽に事務局へ申込んで下さい。

技術を活かし

みどりの環境づくりを進める

市川 清さん

退職しても技術や趣味を武器に新しい人生をと、ご活躍を続ける方、今回は男性のご登場を願って市川清さんの職場(大和市みどりのまちづくり振興財団)を訪れました。

市川さんの第一印象は目が輝き、生きいきとお話し下さる方だな、ということでした。それもその筈現場大好き、サーブス大好きな現れだったので。

みどりの環境の先駆けを

昭和21年に平塚農業改良普及所の野菜関係の普及員として県に就職した市川さんは、平成1年退職され、その36年の間野菜作りから街路樹整備、ガーデニングなど先駆的な仕事に携さわってきました。横須賀・三浦合庁の初代農政課長から農林行政



を担当し、最後は大好きな現場で終りたいと普及所を希望されたそうです。退職後は専

門の技術を生かして、造園企画指導(神奈川県経済農業協同組合連合会)園芸相談員(横浜合庁)みどりの相談員(大和市みどりのまちづくり振興財団・県公園協会)など緑を守り育てるための相談役や花づくりや園芸の講座の講師としても活躍してこられました。

現在は、お住いのある大和市で大和市みどりのまちづくり振興財団の理事長として奮闘中です。

役立つ相談相手にと語る市川さん

何についても相談とは難しいものです。相談を受けて勉強させられています。いろいろの花や山野草など自宅で試験栽培をやって納得した上でお教えするのです。

相談は人と人との出会い触れあいですので、こうやればよく育つよ、よりも、こうすれば失敗しないよと教えています。失敗しなければ聞きに来た人の興味は広がって行きます。同じレベルに合せ会話する、目線と同じくしてお話する、などがけ

山ゆりの咲く福島の庭で



園芸講座の講師



ています。

時には都会を離れて

福島県の浜通り

に土地を求め、広い庭を造り、家を建てました。そこではおもに山野草を育てています。山ゆりなどは、神奈川よりよく育ち花開きます。まあ、趣味ともいえ好きでやっています。

子供3人が自立した段階で、月1回程度都会を離れて空気のおいしく緑豊かな中で、近くの池で白鳥に出会い、夜はかがやく星を眺めるのは、山野草の手入れとともに健康にも役立っているでしょう。趣味も園芸につきまます。

地域とともに自然環境を守る

市川さんの目は広く自然環境全体

に大きく注がれています。奥様と二人で「みどり・環境・福祉などで地域のために尽そう」が合言葉になっています。奥様は「福祉ボランティア」で高齢者グループを助けていらっしゃる、市川さんは「リサイクル推進員」「環境事業推進員」として地域の方々とともに体を動かしていらっしやいます。

訪問した日のゴミ出しには朝6時半からゴミ置き場に出かけ、ビン・かんなどリサイクルに回せるものを選別して自宅に持ち帰り、まとめてリサイクル回収に出し役立てていらっしやるとのことでした。「実践すれば他の人もやる。大きなことより、身近かなことから実践する」と何気なくすすいとされた言葉は、誰でも出来そうでなかなか手の出ないものです。最近では近所の方の中でも一緒に実践される方も現れた由、本当に市川さんの言葉が実証されてきて頼もしい限りでした。

汗をかきながら人と触れあう

これは市川さんのモットーの一つです。人のためはおろか、自分のためにも汗をかくことが少なくなっている今、この言葉の市川さんの生き様には強く打たれました。

お会いした日は天気も私の気持ちも晴ばれとした一日でした。(木村)

認定は厳しく 受入れ体制は不充分

具体化進む介護保険制度

介護保険制度についてはすでに三回にわたってお知らせしましたが、まだこれから政省令が三百ぐらい出されるそうで詳細は明らかになっていません。

最近の動きとしては保険料を天引きする年金の額が月三万円以上から一万五千円以上に引き下げられたこと、給付限度額の最高が二九万から三五万に引き上げられたことがあります。(会報42号参照)

また運営のキーパーソンであるケアマネージャー(介護支援専門員)の第一回試験結果も公表されました。全国の受験者約二〇万七千人、合格者約九万一千人、神奈川県を受験者九、三八八人、合格者四千二六六人、四二・九%の合格率で、女性が七六・六%を占めています。

ケアマネージャーの役割

この役割は介護保険の適用が認定された場合、決められた給付額の範囲内でどのようなサービスを受けるかを利用者の意向をききながら「介護サービス計画」としてまとめることです。

介護支援専門員

(ケアマネージャー)

介護支援専門員実務研修受講試験に合格し、所定の研修を終了した者

5年以上の実務経験を有する医師、歯科医師、薬剤師、保健婦、看護婦、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復士、栄養士等

ケアマネージャーの受験資格は左表のとおりで、今回市町村の職員も多数合格していますが、市町村は直接サービス事業を行わないので、専ら民間事業者の指導に当るのでないかと言われています。

介護保険サービスを提供しようとする事業者は県知事の指定を受けますが、その際ケアマネージャーを設け自ら「介護サービス計画」を作るとなると、規定の一二種類のサービスを実施できる場合、利用者のかこい込みが起ころのではないかと懸念されます。

しかも、認定の前提となる申請者に対する訪問調査も市町村がケアマネージャーに委託することができず、事業者が委託された場合、調査が不適切になるおそれもあります。

要介護認定の手続き

介護保険の適用を希望する人はまず市町村に申請をします。市町村は資格のある職員や委託したケアマネージャーを訪問調査に派遣します。

調査は全国統一様式、統一マニュアルにより身体的機能、身体動作、日常生活動作、痴呆の度合い、特別な医療に関する八五の項目について行われます。その結果をコンピューターで分析し、推計されたケア種別の介護時間によって要介護状態を判定します。

この判定結果に、調査員の特記事項、かかりつけ医の意見書を加えて「介護認定審査会」にかけ最終結果が出されます。この審査会は保健・医療・福祉の専門家五名程度で構成され各市町村毎に、大きいところでは複数設置されるようです。

判定は六段階に分かれ六万円から三五万円の間で給付額が認定され、その一割が利用者の負担になり、有効期間は六か月です。

申請から結果通知までは三〇日以内に行うことになっていますが、これでは緊急の場合とても間に合いません。やむを得ない理由により施設サービスを受けた場合等、特例的に認められることもあるようですが、詳細はまだ不明です。

要介護認定がされない場合

以上述べたように細かいチェックが行われますが、すでに行われたモデル事業ではかなりの人が自立度が高く認定されない可能性がありました。

従って今までヘルパーの派遣や通所サービスを受けていた人でも減らされたり打ち切られるおそれがあり、その場合自費で負担するか、その他の行政サービスに頼ることになり、市町村の財政事情等により格差が出てくるのが考えられます。また、特別養護老人ホーム入所者も要介護の段階によって自己負担額が変わったり、認定されない場合は五年以内に退所しなければなりません。

このように詳細はこれからとはいえ、様々な問題がありますので、各市町村がどのように考えているか注目していく必要があります。

(新井通子)

年金情報

福祉目的税の

危険な動き

政府の「ビター一文国庫負担は増やさない」と堅い決意でスタートした年金改革論議も、九八年参議院選挙の自民党の敗北をへて国民各層のきびしい批判と運動の前に「保険料引上げの凍結」「国庫負担の引上げ」をいわなければならぬところまで追い込まれ新年を迎えました。

老齢基礎年金の国庫負担率、現行の3分の1から2分の1への引上げの必要額は2兆2千億円、政府の銀行支援額からみれば、いまずぐ実施できない額ではないでしょう。しかし、政府は実施時期を次回改正時2004年として今回の改正にもりこまないとしています。

福祉目的税↑消費税

昨年末の自民・自由両党の政策協議では国庫負担引上げの時期ととも

にその財源を「福祉目的税」、いわゆる消費税だと協議され、にわかに福祉目的税が現実味を帯びてきました。そもそも「消費税」は日本経済不況に追い討ちをかけた逆進性の強い大衆課税であり、「廃止」こそあれ大幅な増額などんでもない話です。福祉目的税の危険性は将来、社会保障、年金・介護にたいする国民の要求がたかまる度に「税率引上げ」が行われ、または消費税の引上げが困難を理由に福祉の切下げが行われる危険があることです。一般財源で社会保障費の負担をすることは当然です。現在の国家財政は税負担にたいする国民への還元率が先進諸国で最低であり、国家予算がゼネコン中心の公共投資優先であることは広くいわれています。社会保障の充実に国家予算をといて声を強め、福祉目的税の危険なたくらみを打ち砕いていきましょう。



高齢者運動

県自治労連退職者会

第7回定期総会

開かれる

98年11月13日(金)午後、横浜市従会館で神奈川県自治労連退職者会の総会がありました。「交流と結集を強め

年金・医療・福祉制度の改善を許さず、その改善をめざす」「憲法をくらしの中に生かす施策を」など活動方針が決まりました。また、役員改選で事務局長が新倉昭二氏から赤嶺幸一氏(ともに横浜市従退職者会)に変わりました。こだま会選出の加藤・川井・秋中・斉藤・木村は留任しました。加藤利秋氏は会長、川井弘次・秋中一允・斉藤一悦各氏は幹事、木村武子氏は監事を担当します。

仲間と宴をかこみ

楽しく新年の集い

恒例の新年初詣と親睦・交流の集いが、今年場所は変えて一月一七

日(日)一八日(月)湯河原「碧翠」で開かれました。借り切り70名を満杯にし、横浜市従、鎌倉、三浦、こだま会の仲間が語りあい飲みあい、不況・年金攻勢を吹き飛ばす活動を強めようと誓いあいました。

全国自治体退職者連絡会

総会開催を神奈川県で予定

99年は国連の「国際高齢者年」で世界各国で文化的で人間らしく生きるための活動がくり広げられます。この年に去年六月名古屋で発足した連絡会の総会が、自治労連定期大会にあわせて神奈川県で予定されています。私たちも「高齢者年」の活動としても参加し、ぜひ成功させましょう。

編集・発行 県職労退職者こだま会
発行人 鈴木志げ子
発行日 1999.2.1
No.44
〒231-0005 横浜市中区本町4-37
TEL 045-212-3179(直通)
045-201-1111(内線7953)